

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2007年1月号

「産業応用部門の編修広報について」



電気学会産業応用部門編修広報委員会委員長
玉井 伸三〔東芝三菱電機産業システム(株)〕

平成18年6月より2年間、産業応用部門の副部門長を務めさせていただきます。今年は編修広報委員会の運営をさせていただきます。

私は10年ほど前から主にD部門の編修委員会、論文委員会で電気学会の仕事をさせていただきました。D部門では現在までいろいろな見直しが議論され、主に以下の改革が実施されました。

- ・ 部門独立運営の基本方針の下、部門大会、編修広報を部門中心に運営
- ・ 編修委員会、広報委員会の統合(新編修広報委員会)
- ・ 部門誌の純粋論文誌化(News Letterの別冊子化)
- ・ 論文委員会の独立と編修長の創設
- ・ 技術委員会と論文委員会の連携強化
- ・ 電子投稿システム、電子査読システムの構築と導入

新編修広報委員会は、旧編修委員会で担当していた論文委員会関連作業を新論文委員会へ移行し、より広報に重点をおいた活動をするようになりました。その柱はNews Letter(冊子、WEB)です。記事の内容は、

- ・ 学界情報(主要国際会議レポート)
- ・ 技術開発レポート
- ・ 研究グループ紹介
- ・ 資料コーナー
- ・ 調査研究委員会レポート
- ・ 部門からの広報記事
- ・ 国際会議情報
- ・ D部門関連の電気学会技術報告

などですが、皆様に興味深く読んでいただける記事を各委員ががんばって集めてきております。

D部門会員の読者皆様は冊子版の黄色いNews Letterを読まれていますか?それとも、電気学会D部門ホームページ(<http://www2.iee.or.jp/~ias/index.html>)から読んでいただけのWEB版をお読みでしょうか?

皆様がこの記事がNews Letterでご覧になるのは平成19年1月号の紙面であり、この原稿を書いているのは平成18年10月初めです。現在のシステムでは、原稿を冊子にするために3ヶ月弱必要です。この期間に入稿原稿チェック、版下作成、筆者による最終チェック、印刷、発送が行われます。この時間にはある程度仕方のないものがありますが、少々長いと感じる方も多いでしょう。システムの見直し、迅速化に関しては、電気学会、印刷会社のシステムに依存するため、議論を行いながら、改善を提案していきたいと思えます。

それに対して、ホームページによる閲覧があります。これは、皆様にご自分でアクセスしていただく必要がありますが、印刷などの作業が不要で、システム的には非常に早い広報が可能です。

現在、News Letterは冊子版発行に合わせてホームページを更新しており、バックナンバーがすべて閲覧できるようになっていて便利です。しかし、ホームページ本来のポテンシャルを考えますと、速報性が必要な記事は積極的にホームページに掲載し、皆様により早くお伝えすることが必要です。研究会、産業応用フォーラムなどの案内記事は良くアップデートされていますが、もっと多くの情報が早く広報できるのではないかと考えております。また、現代の広報は視覚的に訴求できることも重要で、必要な情報が見やすく操作しやすいホームページ構成の改善が必要です。

更に、英語版ホームページの充実も急務です。国際化の議論が電気学会本部、産業応用部門でも活発に行われています。海外から見た顔のひとつというべきホームページの充実が必要です。

上記の改善は今後、広報のあるべき姿を議論するとともに、できることから着手していきたいと考えています。

D部門会員皆様のご参加とご支援をよろしくお願いいたします。